

2023 年度前期鳥取大学大学院連合農学研究科 教員資格審査教員調書等に関する〈記入・作成要領〉

鳥取大学大学院連合農学研究科教員調書(別紙様式第1号)、教員の個人調書(別紙様式第2号)、教育研究業績書(別紙様式第3号)の作成・提出に当たっては、次の事項に留意すること。

- 読点は「,」、句点は「.」に統一する。
- 年齢は、直近の研究科委員会日(令和5年8月25日)現在の満年齢を記載する。
- 教育研究業績の対象期間は **令和5年(2023年)3月まで** とし、最近5か年の起算日は **平成30年(2018年)4月** とする。

◆教員調書(別紙様式第1号)◆

- ・ 年号は全て西暦で記載する(例:2023年1月)。
- ・ 所属しようとする研究科等には、鳥取大学大学院連合農学研究科規則第3条の「専攻及び講座」の中から選択して記入する。
- ・ 博士課程の学生指導及び学位審査に関する経験には、補助教員としての指導は含まない。
- ・ 准教授のD○合申請における著書及び学術論文数の記載については、「学術雑誌B」最近5年間の数」の下部()内に「筆頭/責任著者数」を記載する。それ以外の場合は()を削除する。
- ・ 「著書及び学術論文数」欄について、「学術雑誌B」には「連大資格審査学術雑誌リスト(2023年2月17日版)」に掲載されている論文数を、「学術雑誌C」には「学術雑誌B」以外の学術論文の数」を記入する。

◆教員の個人調書(別紙様式第2号)◆

- ・ 年号は全て西暦で記載する(例:2023年1月)。
- ・ 学歴欄については、大学入学または編入学以降を年代順に記載し、博士号取得年月(学位記番号を含む)も記載する。
- ・ 賞罰欄には、学会賞及び学会賞に準ずる賞の受賞暦についても記載する。

◆教育研究業績書(別紙様式第3号)◆

- ・ 刊行年順に(古い順から)番号を付して記載する。
- ・ 最近5か年の起算年(2018年)及び最終年(2023年)の業績については必ず刊行年月まで記入し、その他の年の業績は刊行年のみ記入する。
- ・ 刊行年又は刊行年月は西暦で記載し、2023年1月の場合 2023. 1 のように記入し、それらを確認できる書類(ウェブページを印刷したもの等)を必ず添付する。

1. 著書 A

- (1) **単行本、教科書、参考書等の場合は必ず ISBN 番号を記入する。**ISBN 未記入の場合は、**業績としてカウントしない。**「著書 A」には、学術的雑誌の総説等を含むことができる。下記の「著書、学術論文の性格と範囲」を参照すること。総説等の場合、**リンク付書式で DOI を記載する(論文情報確認のため必須、番号のみは不可)**。日本語論文の場合も、J-Stage、

JaLC (JST)、国立国会図書館データ等を参照し、可能な限り付加すること。

- (2) ISSN 番号が付く、著者の専門領域に関する学術的ないしは技術的な出版物(出版社又は研究機関の刊行)等の定期刊行物は著書ではなく、学術雑誌 C に記入する。
- (3) 1冊の著書の中で複数の箇所を執筆した場合は、pp. XX-XX, XX-XX, XX-XX、のように連記して1つの業績として示す。
- (4) 申請者名には全てアンダーラインを付す。
- (5) 添付データはすべて PDF ファイルとして提出する。執筆頁、表紙、著者・編者名、発行年月、発行所、発行所所在地、ISBN 番号等の必要事項が全て確認できるデータを含む PDF ファイルを作成すること。なお、PDF ファイルのファイル名の中の番号は、業績書中の番号(A1、A2・・・)と一致させること。

2. 学術雑誌 B,C

- (1) 受理済の論文は含め、投稿中の論文は除く。受理済の論文については、投稿論文に受理証明書添付した PDF ファイルとして提出する。受理の通知メール等をデータとして提出する場合は、メール本文をコピー、ペーストしたものでなく、メールの印刷画面(ヘッダー等が付されたもの)をそのまま用いる。
- (2) 論文著者中の申請者名には全てアンダーラインを付す。
- (3) 申請者が corresponding author(責任著者)である場合は、第1(筆頭)著者であっても、氏名の後ろにアスタリスク(*)を記入する。
- (4) 雑誌名は“連大資格審査学術雑誌リスト(2023年2月17日版)”に掲載されている通りに記載し、省略しない。雑誌名の後に、[]書きで学術雑誌リスト中の、雑誌の通し番号を記入すること(記入例参照)。
- (5) すべての原著論文に、リンク付書式で DOI を記載する(論文情報確認のため必須、番号のみは不可)。日本語論文の場合も、J-Stage、JaLC (JST)、国立国会図書館データ等を参照し、可能な限り付加すること。オンラインジャーナル等で頁番号が無いものについては、DOI が記載されていればよい。
- (6) 各学術論文には、原著論文、短報、Short communication 等の論文カテゴリーを記載する。
- (7) 添付データはすべて PDF ファイルとして提出する。2018年および2023年の業績に関しては、刊行月までが確認できるデータファイルを添付した PDF ファイルを作成すること。なお、PDF ファイルのファイル名の番号は、業績書中の番号(A1、A2・・・、B1、B2・・・)と一致させること。

3. その他 D

- (1) 上記学術雑誌の記載方法に準ずる。

著書, 学術雑誌等の分類
<p><1. 著書 A></p> <ul style="list-style-type: none"> ・著者の専門領域に関する学術的ないしは技術的な出版物(出版社又は研究機関の刊行)で定期刊行物を除く単行本 ・教科書、参考書、学術的雑誌の総説、翻訳書、事典など (ただし、その判定は審査委員会に委ねる。)
<p><2. 学術雑誌 B></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的学術雑誌及び学会誌として規定されており、レフェリー制度のある雑誌〔学術雑誌〕のうち、「連大資格審査学術雑誌リスト」に含まれるもの
<p><3. 学術雑誌 C></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術雑誌のうち、上記リストに含まれないもの
<p><4. その他 D>(調書には下記の順に記載すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部学術報告、紀要、演習林報告などの学内刊行物 ・国公立試験研究所報告及びその他の研究所報告等 ・学術的な解説記事等 ・国際学会等のプロシーディング(レフェリー制度のあるもの) ・特許及び品種登録 <p>※学位論文、科学研究費関係報告書及び調査報告書は、学術論文として記入しない。</p>